

楽天CFDセミナー

コモディティアナリスト 吉田哲の 注目銘柄と今後の展望

2024年12月10日 (火) 19:30 - 20:15

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。弊社の取扱商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面等をよくお読みになり、内容について十分にご理解ください。

商号等：楽天証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

- **11月の商品CFD 変動率ランキング**
- **今注目したい銘柄（振り返りと展望）**
- **質疑応答**

- **11月の商品CFD 変動率ランキング**
- 今注目したい銘柄（振り返りと展望）
- 質疑応答

● 楽天CFD月間ランキング



楽天CFD取扱銘柄の売買代金と変動率のランキング

【算出方法】

売買代金ランキング：該当月における第1営業日から最終営業日までの各銘柄の売買代金合計をもとに算出

変動率ランキング：該当月の前月末の終値と該当月末の終値をもとに算出（変動率が大きい銘柄から順に表示）

出所：楽天証券のウェブサイトより抜粋

R

月初に「売買代金」と「変動率」のランキングを公表中。

売買代金ランキング

順位	銘柄
1	日本225
2	金
3	米国NQ100
4	WTI原油
5	米国500
6	銀
7	香港HS50
8	米国30
9	粗糖
10	ドイツ40

変動率ランキング

順位	銘柄	変動率
1	天然ガス	↑ 49.2%
2	コーヒー	↑ 31.0%
3	ココア	↑ 25.2%
4	シンガポール	↑ 15.8%
5	中国A50	↑ 13.2%
6	米国TEC	↑ 12.6%
7	中国H株	↑ 11.8%
8	米国2000	↑ 10.1%
9	香港HS50	↑ 9.7%
10	米国400	↑ 9.1%

出所：楽天証券のウェブサイトより筆者抜粋

- **本日の内容**

- 11月の商品CFD 変動率ランキング

- **今注目したい銘柄（振り返りと展望）**

- 質疑応答

● 楽天CFDラインナップ（商品）（2024年12月06日時点）

金属



金



銀



プラチナ



パラジウム



銅

エネルギー



WTI原油



北海原油



ヒーティングオイル



ガソリン



天然ガス

農産物



大豆



コーン



小麦



コーヒー



粗糖



ココア



コットン



生牛

出所：楽天証券のウェブサイトより抜粋



楽天CFDでは18の商品（コモディティ）銘柄を取り扱っている。

● 今注目したい銘柄の 振り返りと展望

金属



金



銀



プラチナ



パラジウム



銅

エネルギー



WTI原油



北海原油



ヒーティングオイル



ガソリン



天然ガス

農産物



大豆



コーン



小麦



コーヒー



粗糖



ココア



コットン



生牛

出所：楽天証券のウェブサイトより筆者抜粋

偏向（部分）
発信

原油

トランプ当選「掘りまくれ！」
で原油暴落



金（ゴールド）

有事の金買い

株と金の逆相関

ドルと金の逆相関



偏向（部分）
受信

原油

（インフレ、収まってほしい・・・）



金（ゴールド）

（わかりやすい！戦争は買い！）

（株価下落時の受け皿がほしい・・・）

（ドル下落時の受けが皿ほしい・・・）



実際の値動きは・・・

原油

トランプ当選でも高止まり中。



金（ゴールド）

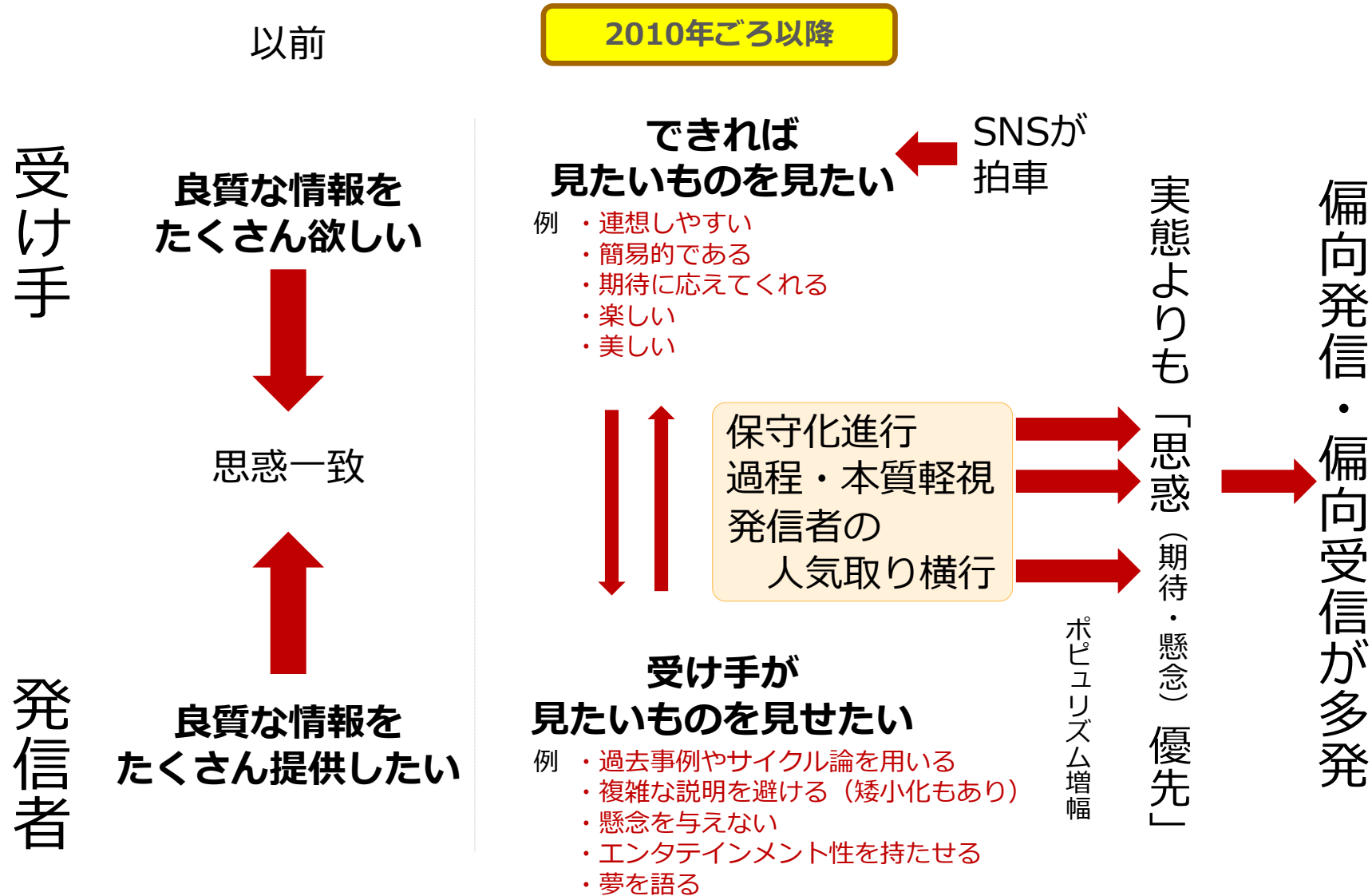
戦争勃発（22年）でも下落。

株価急落（24年8月）でも下落。



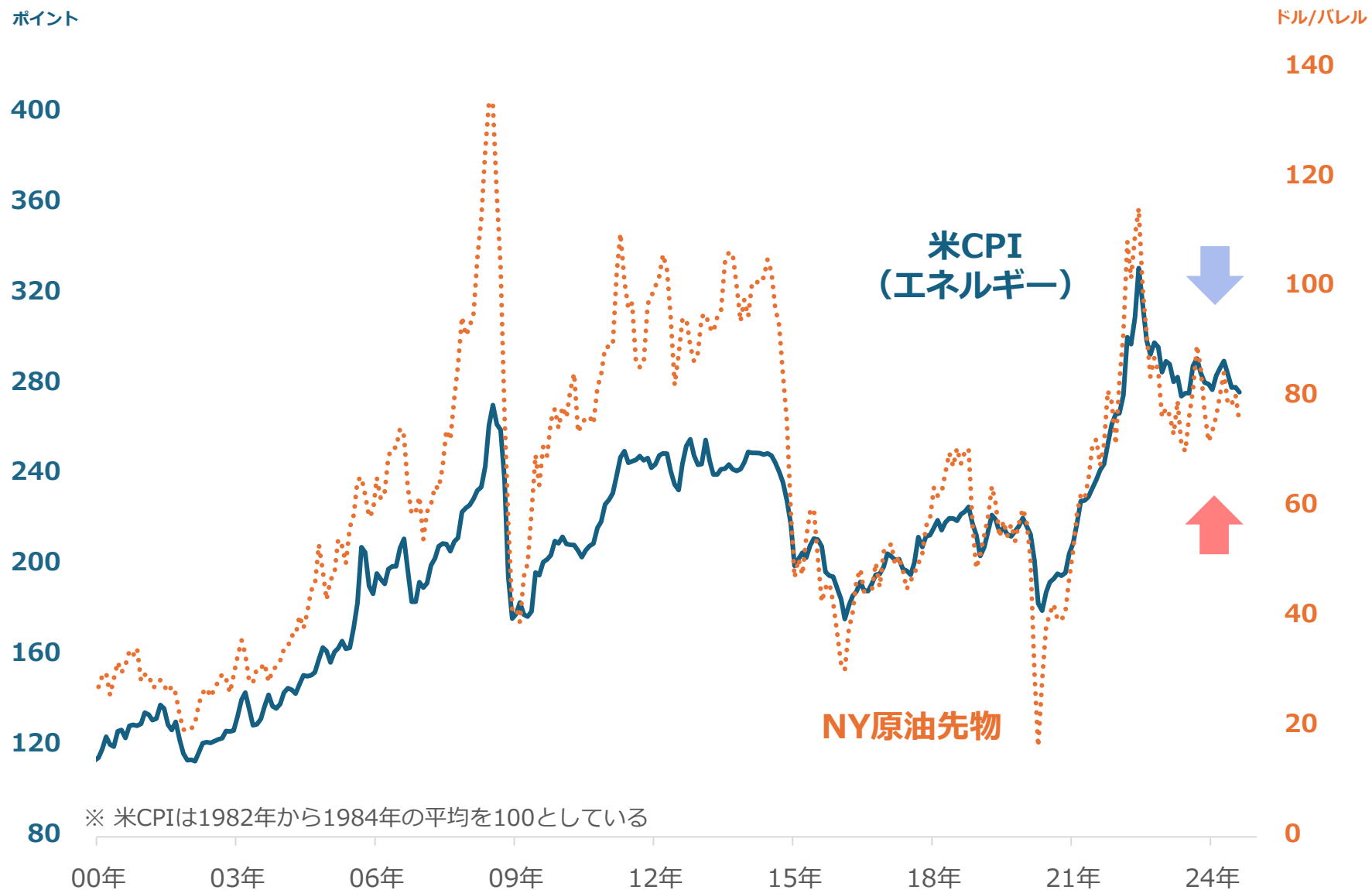
出所：筆者作成

● 近年の情報の受け手と発信者の関係



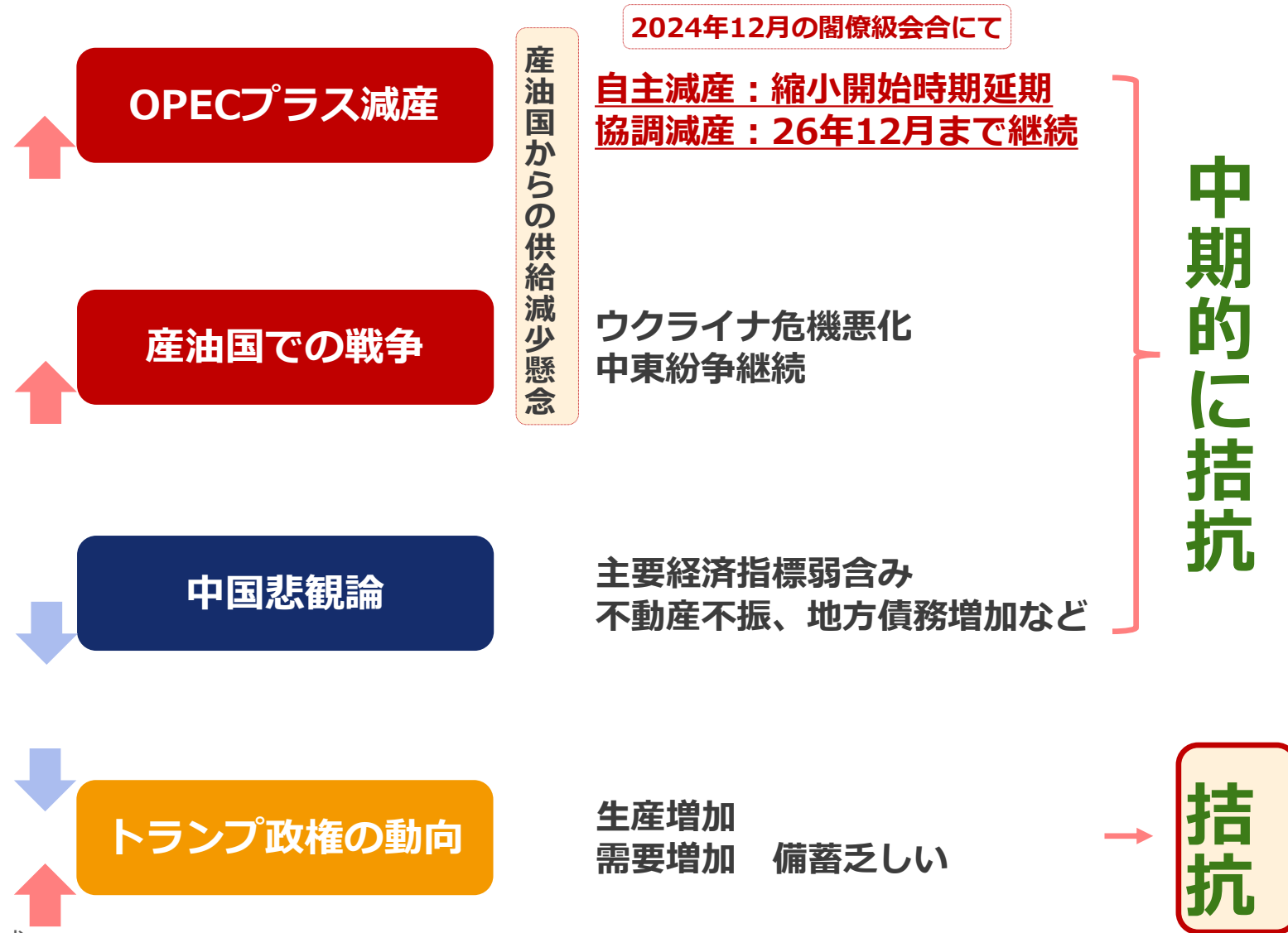
出所：筆者作成

● 米CPIのエネルギー（実数値）とNY原油先物（月足 終値）



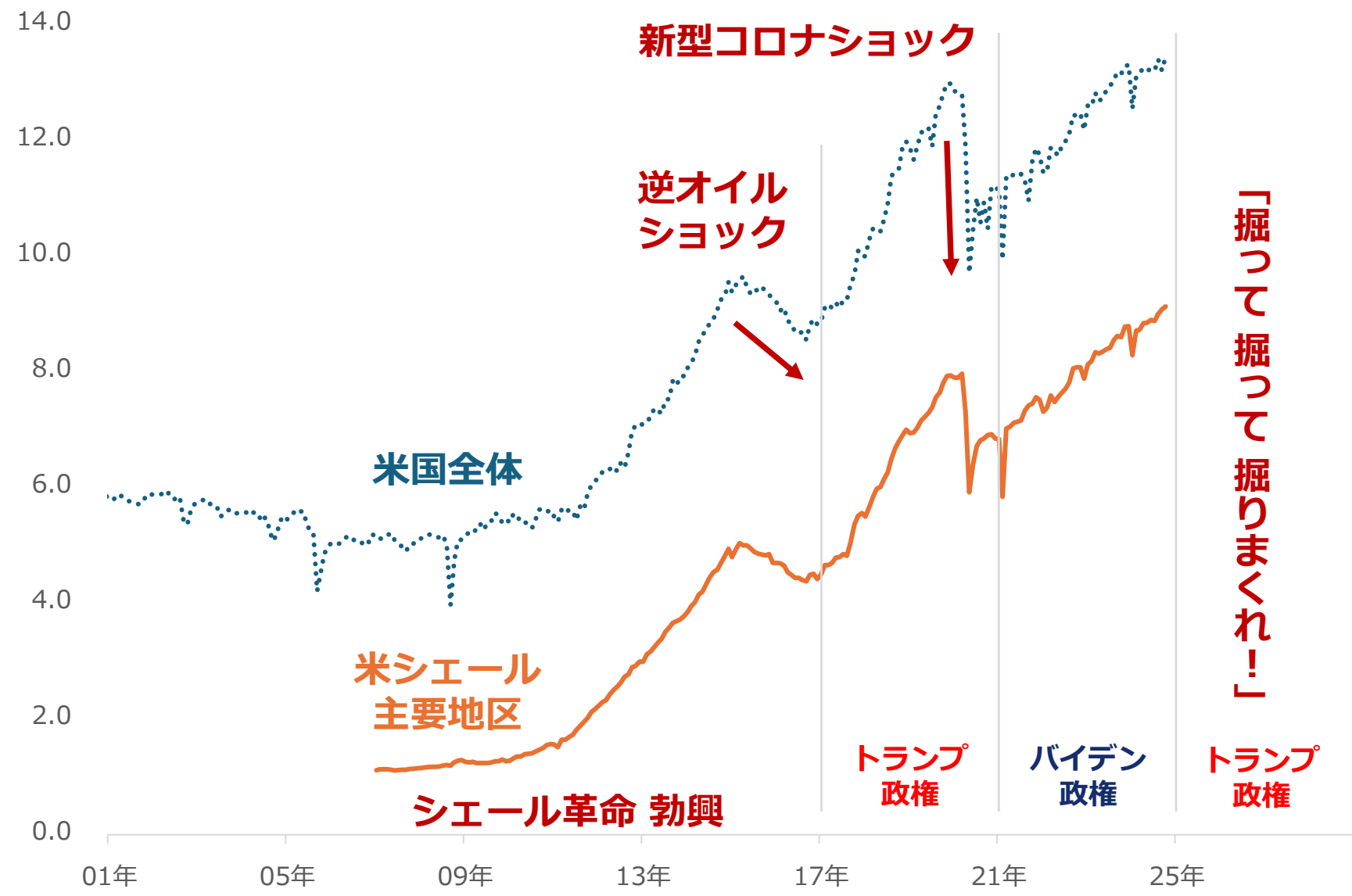
出所：米労働省およびInvesting.comのデータより筆者作成

● 足元の原油市場を取り巻く環境 (2024年12月)



出所：筆者作成

● 米国の原油生産量の推移 単位：百万バレル/日量

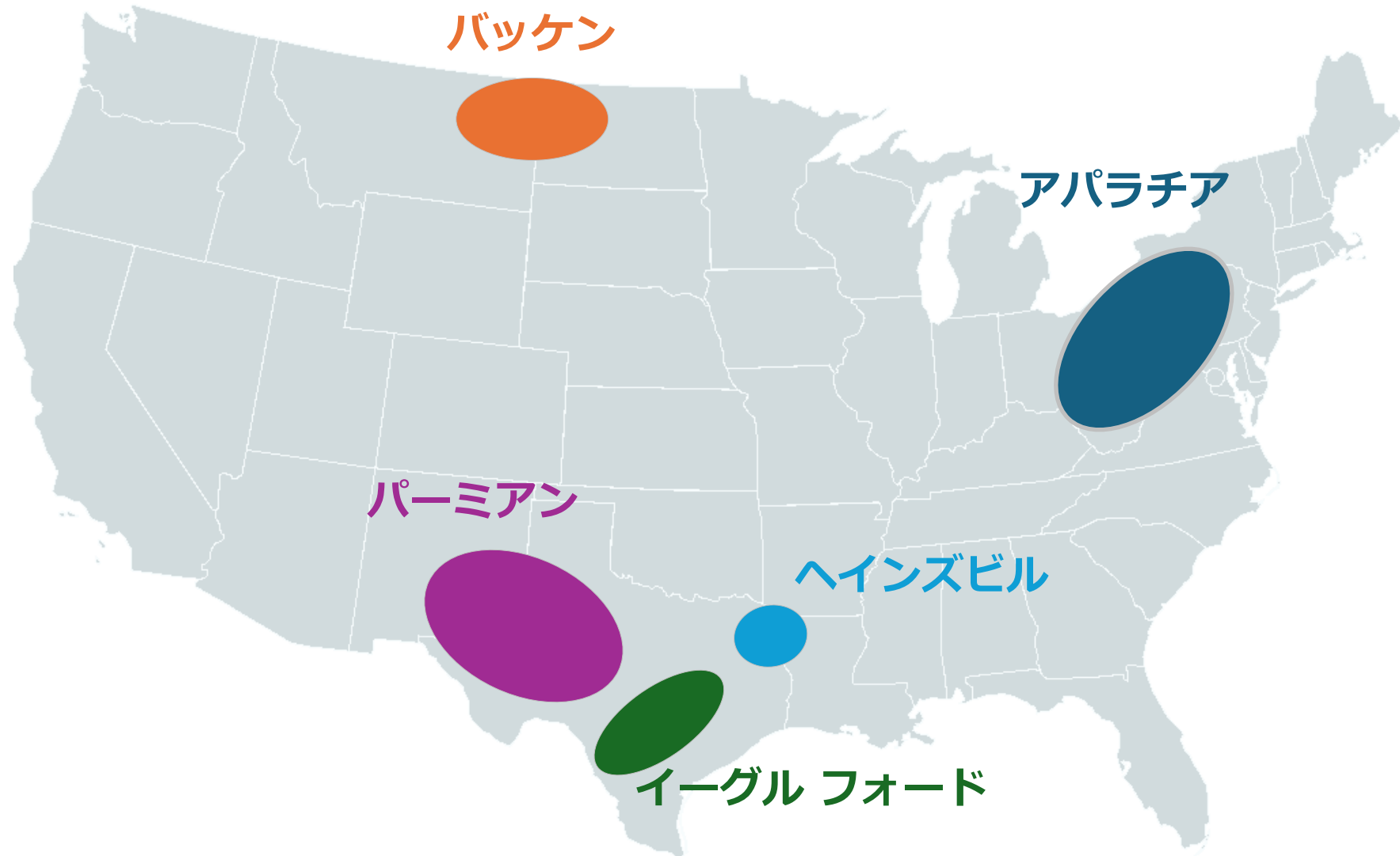


出所：EIA（米エネルギー省）のデータをもとに筆者作成



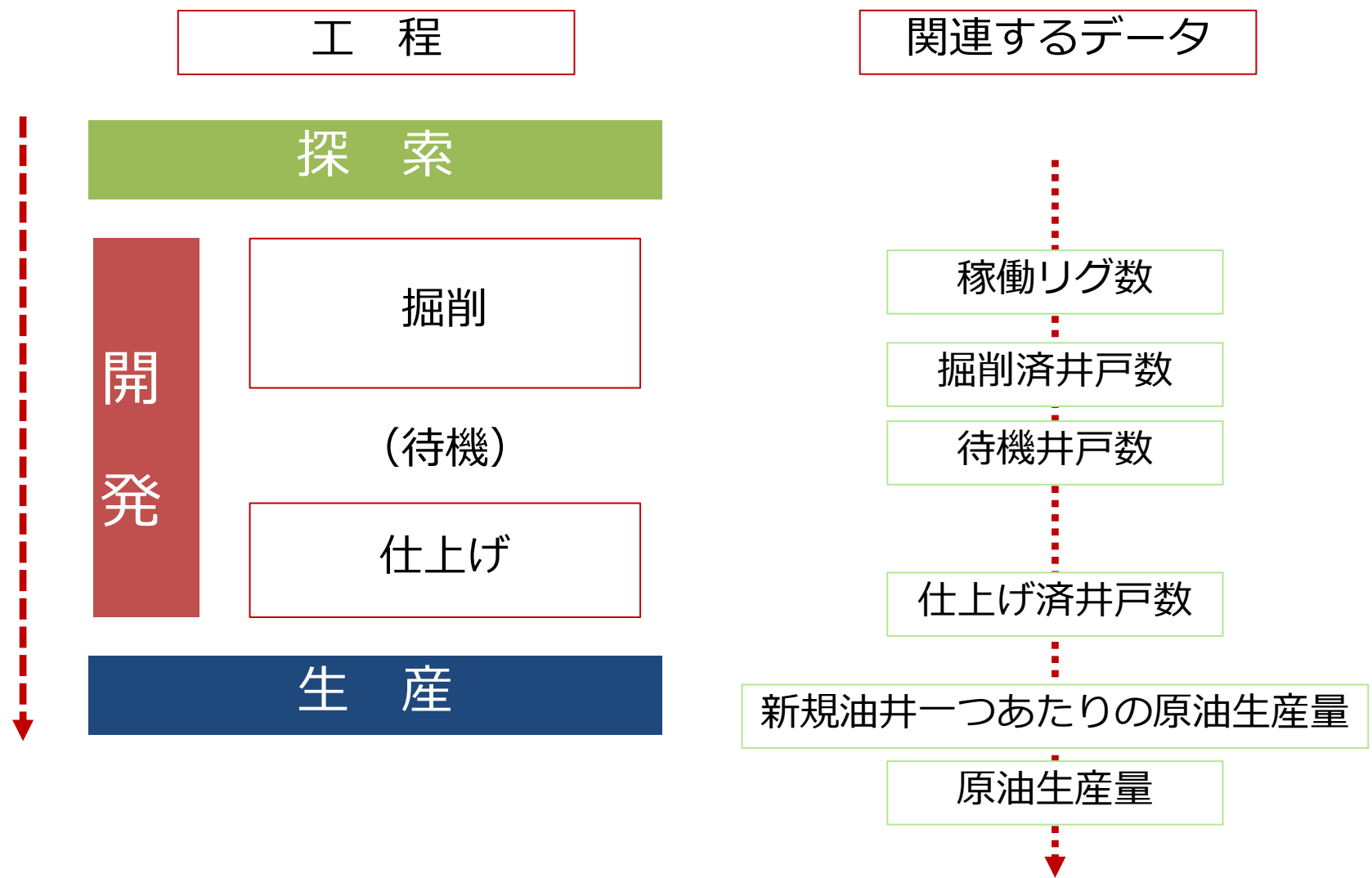
米国の原油生産のおよそ7割がシェール主要地区産。

● 米国のシェール主要5地区



出所：EIAの資料をもとにMap Chartを利用して筆者作成

● 米国のシェール生産までの工程（イメージ）と関連するデータ

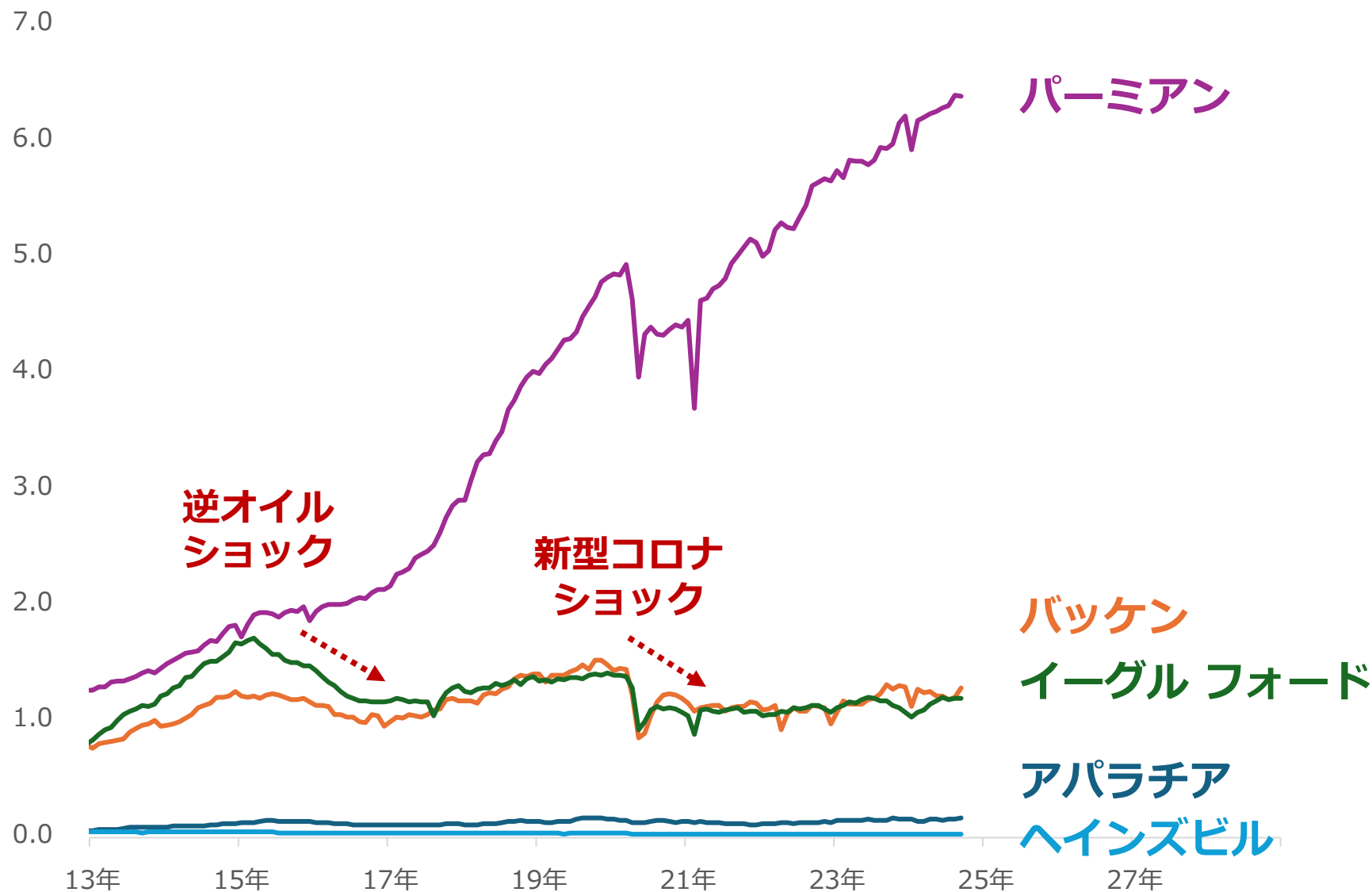


出所：EIAなどの資料をもとに筆者作成



探索・開発・生産の三つの行程。開発は掘削と仕上げに分かれる。

● 米シェール主要地区の原油生産量の推移 単位：百万バレル/日量

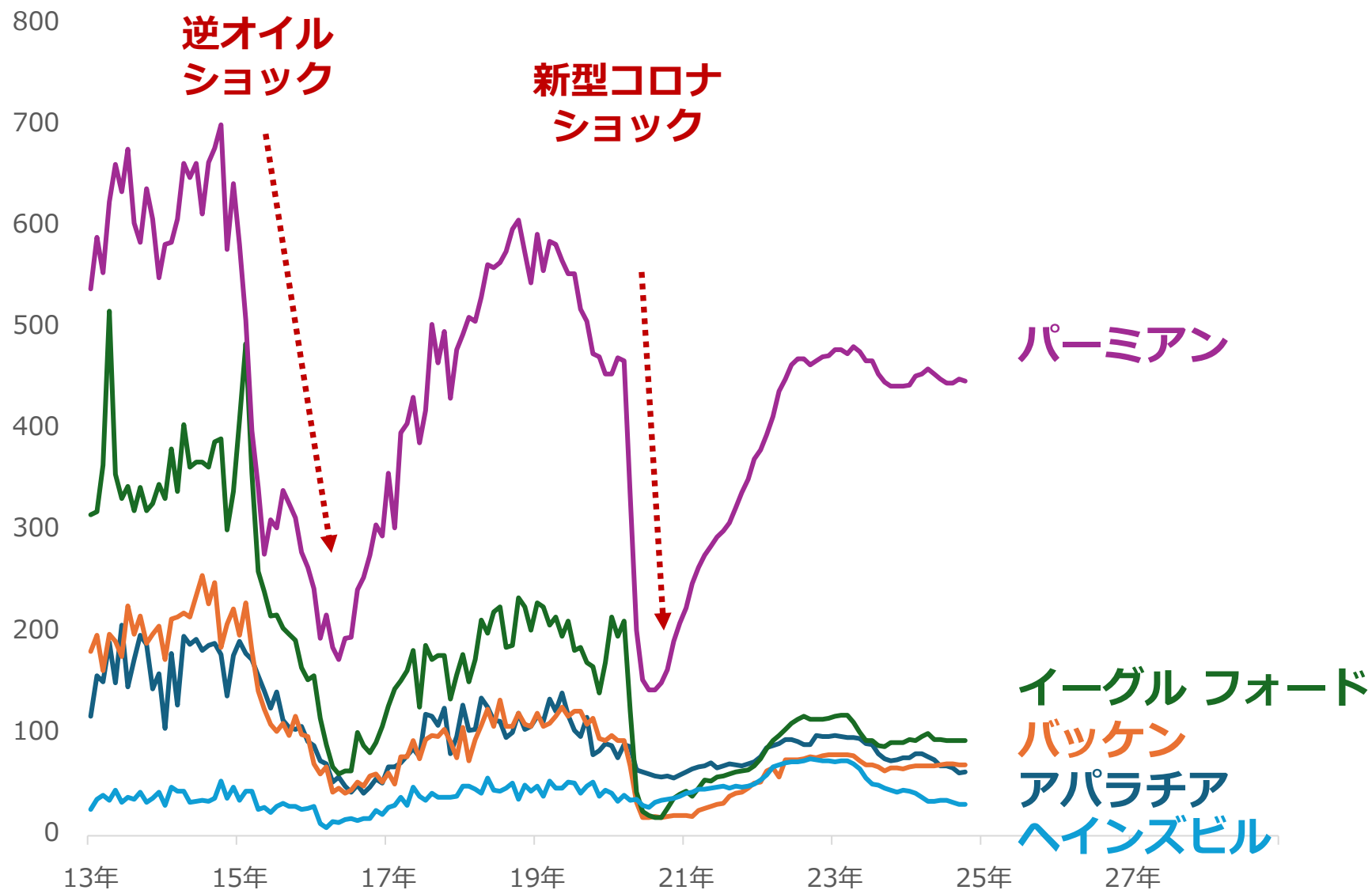


出所：EIA（米エネルギー省）のデータをもとに筆者作成

R

二度のショックで、バッケンとイーグル フォードの勢いは大きく減退。

● 米シェール主要地区の原油生産量の掘削済井戸数の推移

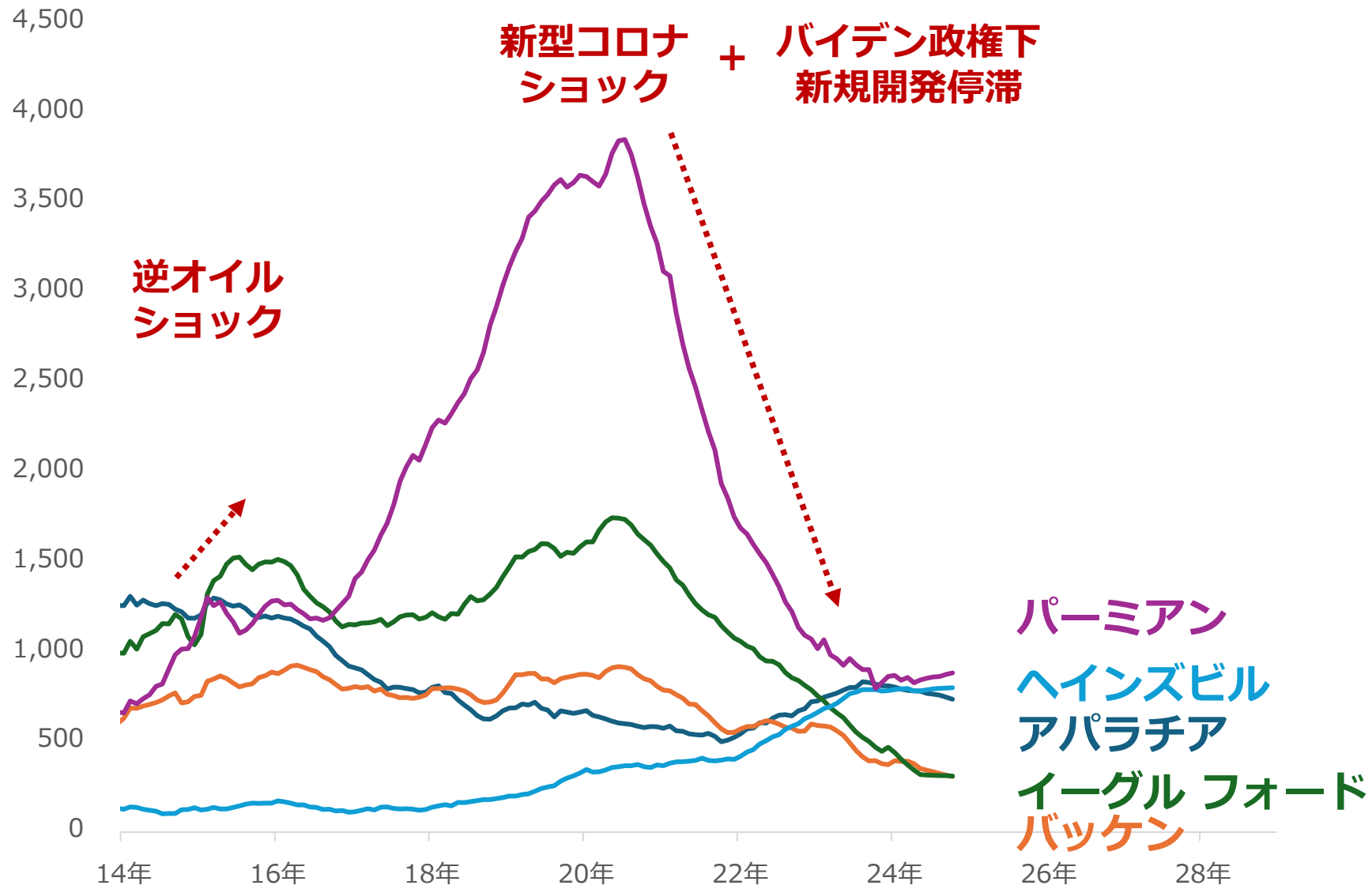


出所：EIA（米エネルギー省）のデータをもとに筆者作成

R

バッケンとイーグルフォードは二度のショックを経て、掘削停滞地域になった。

● 米シェール主要地区の待機井戸の数 単位：基

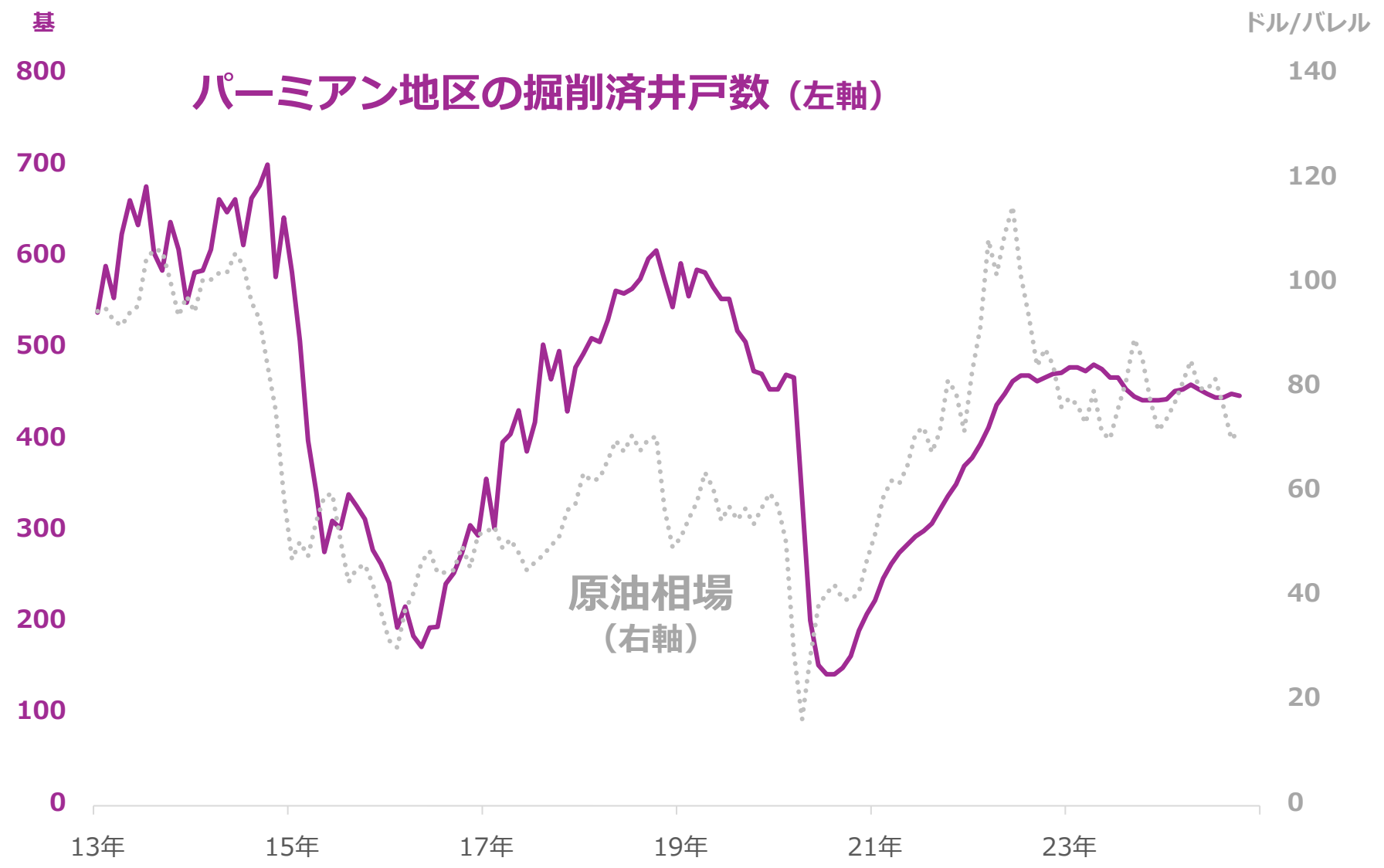


出所：EIA（米エネルギー省）のデータをもとに筆者作成



新型コロナショック+バイデン政権発足が、パーミアンの待機井戸を激減させた。

● パーミアン地区の掘削済井戸数と原油相場

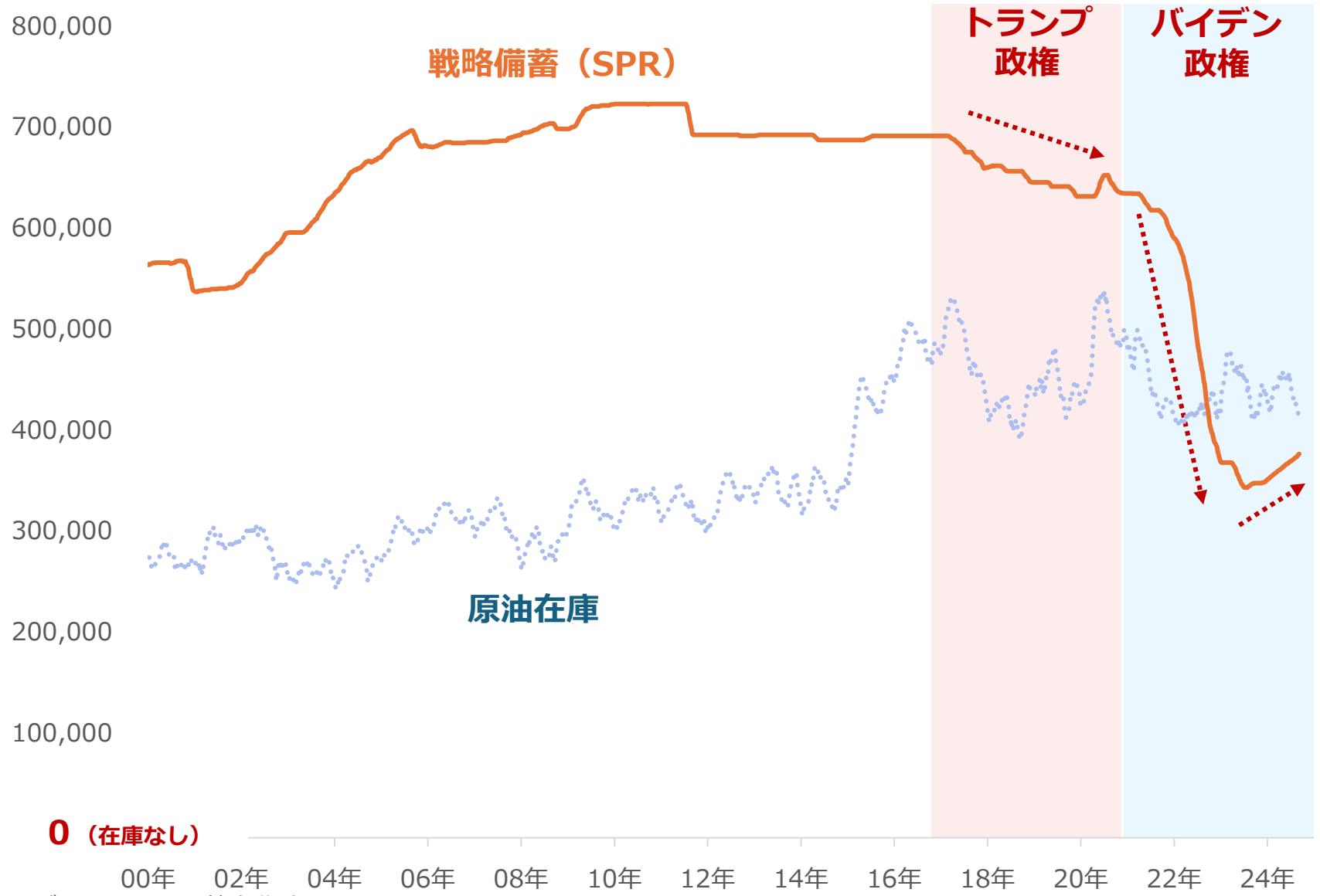


出所：EIA（米エネルギー省）のデータをもとに筆者作成



パーミアン地区では、原油相場の動向に応じ、高水準の開発が行われている。

● 米国の原油在庫の推移 単位：千バレル



0 (在庫なし)

出所：EIAのデータをもとに筆者作成

R

バイデン政権時代に大量の戦略備蓄放出が行われた。

● OPECプラスの減産（イメージ） 単位：万バレル/日量



出所：ライスタッド・エナジー、JODIのデータおよびOPECの資料をもとに筆者作成

自主減産縮小で360万バレル程度 生産量が増えても供給過剰にはならない。

● トランプ2.0環境下の「全体観（一例）」

全体観 (一例)	明 (喜)	&	暗 (悲)
話題創出 →	ビッグ マウス (大口)		誇張表現
気運向上 →	全体的な景気 回復期待 増		部分的な景気 鈍化懸念 増
自国優先 →	強い米国 復活		一部の関連国 疲弊
交渉多用 →	部分的な 事態進展		別の混乱 発生

トランプ2.0はまさに、悲喜こもごも

出所：筆者作成

R

トランプ2.0環境下では、一つのテーマ内で正反対の事象が存在し得る。

参考：金（ゴールド）に関わる七つのテーマ（2024年12月時点）

「局面」

時間軸	テーマ	材料（一例）	金相場への圧力
短中期	(1) 有事ムード	・ウクライナ戦争悪化 ・中東情勢悪化 ・東アジア情勢悪化	↑
	(2) 代替資産	・トランプトレード	↓
	(3) 代替通貨	・米利下げ観測 → ドル安観測 ・トランプトレード	↑ ↓

「時代」

中長期	(4) 中印等の宝飾需要	-	2010年ごろ以降	
	(5) 中央銀行	・金保有高増加（新興国中銀） ・通貨供給量増加（米ドル）		↑
	(6) 鉱山会社	・コスト増加起因の生産減少 ・増産や売りヘッジ		↑ ↓
超長期	(7) 見えないジレンマ	・西側 非西側の分断 ・SNS・ESG起因の混乱	2010年ごろ以降	↑
	(8) 「ドル円の変動」も	・円高 → 円建て金安		↓

出所：筆者作成

R

CFDの売買で注目するのは「局面」。「時代」ではない。

- **本日の内容**

- 11月の商品CFD 変動率ランキング
- 今注目したい銘柄（振り返りと展望）
- **質疑応答**